**令和５年度第２回　オホーツク圏域障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会**

**議　事　録**

|  |  |
| --- | --- |
| 開催日時 | 令和５年２月７日（水）１３時３０分～１５時００分 |
| 開催場所 | オオホーツク合同庁舎３階２号会議室（網走市北７条西３丁目）及び各市町村会場（ZOOMによるオンライン会議）のハイブリッド開催 |
| 出 席 者 | 地域づくり推進員 穂髙優子地域づくり委員 渡辺沙世、市野孝雄、田中志穂、石井友也、松﨑弘子玉置創司市町村障がい福祉主管担当者（出席者名簿のとおり）【議題「障害者差別解消支援地域協議会について」のみの参加】［事務局］地域づくりコーディネーター　佐藤直美、遠山亜紗美北海道オホーツク総合振興局保健環境部社会福祉課課長 本間久宣、主査（地域福祉）中川義浩、主事　伊藤愛主事 田中竜太郎　主任　足助敬 |
| 報告、協議事項 | ・令和５年度の取組（施設訪問）について・障害者差別解消支援地域協議会について |
| 配付資料 | ・次第、出席者名簿、資料１、資料1-1、資料1-2、資料1-3、資料1-4、資料1-5、資料1-6、資料２、資料３、資料４、資料５、資料６，資料７ |
| 議　　事 | ○　令和５年度の地域づくり委員会の取組について、管内の障がい児・者入所施設の訪問を行ったことから、資料１、資料1-1～1-6及び資料２に基づき、事務局からその概要を説明するとともに、施設訪問に参加した委員がその感想等を述べた。委員の感想内容については次のとおり。［滝上リハビリセンター（滝上町）］・　過去に訪問したことがあるが、増築整備されていた。利用者は道内外から入所している。関東圏からの入所者もいるが、紋別空港があるため距離があることに問題はないと聞いた。・　職員は地元の人も雇用しているが、人の入れ替わりがなく、海外からも職員を受入れている、人材不足、資源が乏しくなってきていることが課題であると、説明を受けた。［清流の里（西興部村）］* 村が、以前から福祉の町づくりを推進している背景がある。
* 人材不足、担い手不足が課題で、海外からも雇用している。

・　海外から人を雇用しても、生活インフラや娯楽がないため、中々長期の雇用につながらないため、地域のサポートが必要と説明を受けた。［きたみ学園（北見市）］・　昭和時代には療育について職員が手弁当で貢献していたが、現在は新型コロナウイルス対策もあるため、地域への啓発や、情報の提供等の余裕はないように感じられた。・　地域の隠れたニーズは大きいと思われるが、園内の対応で手が回らない状況であれば、地域的な損失は大きいと感じた。・　人材育成について、高齢者介護等に関ししっかりした考え方を持っていると感じられた。［ひまわり学園（遠軽町）］・　数年前まで強度行動障害のある子ども達の受け皿という認識をしていたが、現在は状況が変わったように感じた。・　入所する子ども達の対応も異なってくるため、職員の負担の大きさや研修の困難さが伴うものと感じた。全道規模でみると、過程での養育が困難なタイプの子ども達もおり、その処遇がどのようになっているか心配に思った。［サンライズヨピト（網走市）］・　立地的に網走市郊外にあり、地域の福祉の拠点としての役割が求められていると感じた。・　網走市には特別支援学校があるが、孤立してしまうと障がい者や保護者も選択肢が狭くなりがちになるため、幅広い選択肢が可能となるような地域の体制が望まれるのではないか。・　利用者、支援者とも生き生きとしていた。利用者が作った作品を見せてもらい、ほっこりとした気持ちになった。* 利用者が前向きに頑張っており、良い施設だと思った。

・　施設内にカメラがなく、虐待等入所者の人権養護の観点から必要と考えられるので、設置をお願いした。国として福祉に対して配慮が不足していると感じられた。○　障害者差別解消支援地域協議会の開催にあたり、事務局より「オホーツク圏域障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会」の概要について、　資料３に基づき説明するとともに、「障害者差別解消支援地域協議会」の概要について資料４、協議会の意義や役割について資料５に基づき説明した。○　管内で「障害者差別解消支援地域協議会」を設置している市町村からそれぞれの概要について説明を受けた。（資料６）○　障害者差別の事例にについて、資料７を参考にして、ZOOMオンライン参加者については２班、オホーツク振興局会場参加者については１班に分かれて意見交換を行った。　　自立支援協議会で、障がい者が自身が置かれている生きづらさについて語る場を設けて好評だった等の意見、情報提供があった。 |